

授業科目名	グローバル社会論	単位数	2 単位
担当教員名	東 智美	担当形態	単独
実務内容 (実務家教員の場合)	<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>星槎大学は、「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という三つの約束のもと、「人と人、そして人と自然とが共生する社会の創造に貢献する」を教育理念としています。共生科学部は、この三つの約束、教育理念に基づき、「21 世紀を創造する広く深い知の涵養」「共生する心の耕作」「課題探究能力の育成」「インクルージョン教育に基づいた社会実践を担い、社会変革を目指す人材の養成」を教育目的とし、以下の「星槎共生スピリット」を身に付けたものに学位を授与します。</p> <p>A. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。</p> <p>B. 問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。</p> <p>C. 共感理解教育の理念を認識し、実践すること。</p> <p>D. 多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。</p> <p>E. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。</p> <p>F. 共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。</p>		
授業のテーマ及び到達目標	<p>(1) グローバリゼーションの中で変容する国際社会の課題を、「グローバル・サウス」という概念を用いて理解する。</p> <p>(2) 世界で起きている出来事が、自分たちとどのように結びついているかについて考える視点を身につける。</p> <p>(3) グローバルおよびローカルな課題を踏まえて、新たな世界秩序のあり方について自分の見解を示せるようになる。</p>		
授業の概要	<p>グローバリゼーションの中で、経済活動を中心に地域統合が進められ、国境を越えるヒト・モノ・カネ・情報の移動が加速する一方で、国家や国境の役割はなくなり、時としてより強固な壁（移民排斥運動やヘイトスピーチ）が作られている。グローバルな経済・政治的な秩序の変容は、それぞれの地域固有の（ローカルな）現象として現れ、またローカルな動きが世界秩序に影響を与えるというグローバル化とローカル化の相互作用が起こっている。これまで国際政治の中では世界を「先進国」／「途上国」、「北」／「南」という二項対立によって分析してきたが、グローバリゼーションのもとで「先進国」と「途上国」、あるいは「北」と「南」の関係の相互依存が深まり、国境を越えて社会的ヒエラルキーや不平等が出現するようになっている。そこで、本授業では、グローバリゼーションの中で変容する国際社会の課題を考察するうえで、「北」と「南」の諸関係を内包する「グローバル・サウス」という概念に着目する。グローバリゼーションの展開と諸問題を学んだ上で、「グローバル・サウス」の諸地域が抱える課題から、新たな世界秩序のあり方を考察する。スクーリングでは、アクティブラーニ</p>		

ングの手法も用いながら、具体的な事例を通じて、グローバルおよびローカルな視点から新たな世界秩序のあり方について考察する。

授業計画

- 第1回：イントロダクション：グローバル・サウスの時代（序章）
- 第2回：帝国主義とグローバリゼーション（第1章）
- 第3回：21世紀のグローバル・サウスとポスト新自由主義（第2章）
- 第4回：米国の「平和」と「戦争」（第3章）
- 第5回：アジア太平洋地域における安全保障と地域社会（第4章）
- 第6回：欧州投資銀行による対アフリカ開発金融（第5章）
- 第7回：冷戦終結後のロシアにおける社会経済変容（第6章）
- 第8回：新自由主義時代の国際移民と国境管理（第7章）
- 第9回：生存権をめぐる底辺からの運動（第8章）
- 第10回：開発・環境問題と発展途上国（第9章）
- 第11回：グローバリゼーションと途上国の貧困（第10章）
- 第12回：日本の外国人労働者政策（第11章）
- 第13回：経済・金融危機のEUへの影響（第12章）
- 第14回：グローバル化に抗する市民・運動・暴力（第13章）
- 第15回：紛争後の平和構築（第14章）

定期試験

スクーリングでの学修内容

（主に、シラバスの授業計画の第9回～第15回までの内容を含む）

スクーリングでは、グローバル・サウスの諸地域が抱える21世紀型の諸問題について、具体的な事例を通じて学び、グローバルおよびローカルな視点から新たな世界秩序のあり方について考察する。その際、ディスカッションやグループワークも取り入れる。

教科書

松下冽・藤田憲（編）（2016）『グローバル・サウスとは何か』ミネルヴァ書房。

参考文献

伊豫谷登士翁（2002）『グローバリゼーションとは何か：液状化する世界を読み解く』平凡社。

学生に対する評価

スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、科目修得試験（50%）を総合して評価する。